

図 1. 2つの海上局ブイに取り付けた水温計で測定した水深の異なる海中水温の時間変化
 (名古屋大学 [課題番号: 1706]) 緑線と青線はそれぞれ2台のブイを示す。

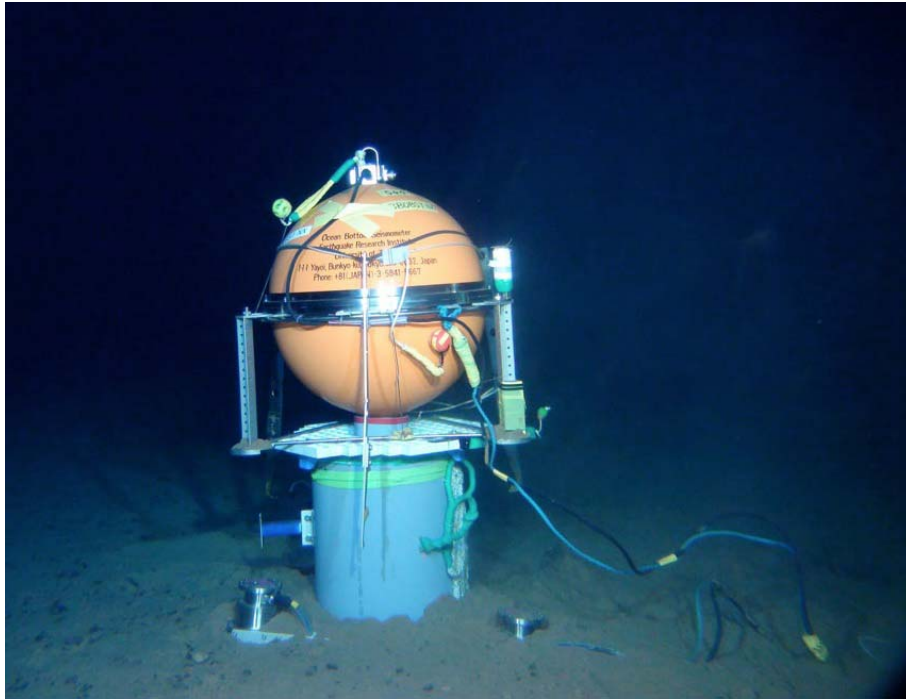


図2. 試験観測を実施した BBOBST-NX の海底での様子（東大地震研〔課題番号：1431〕）。

2012年11月に「かいこう7000II」で展開・設置、2013年2月に回収した。この観測では課題番号1432でのBBOBS-NXの機能高度化に関する基礎的試験も兼ねていた。そのため、オレンジ色のチタン球耐圧容器であり記録部を、センサー部の上方へ設置するために、その中央部に台座（塩ビパイプ製）を置いてから記録部を載せている。

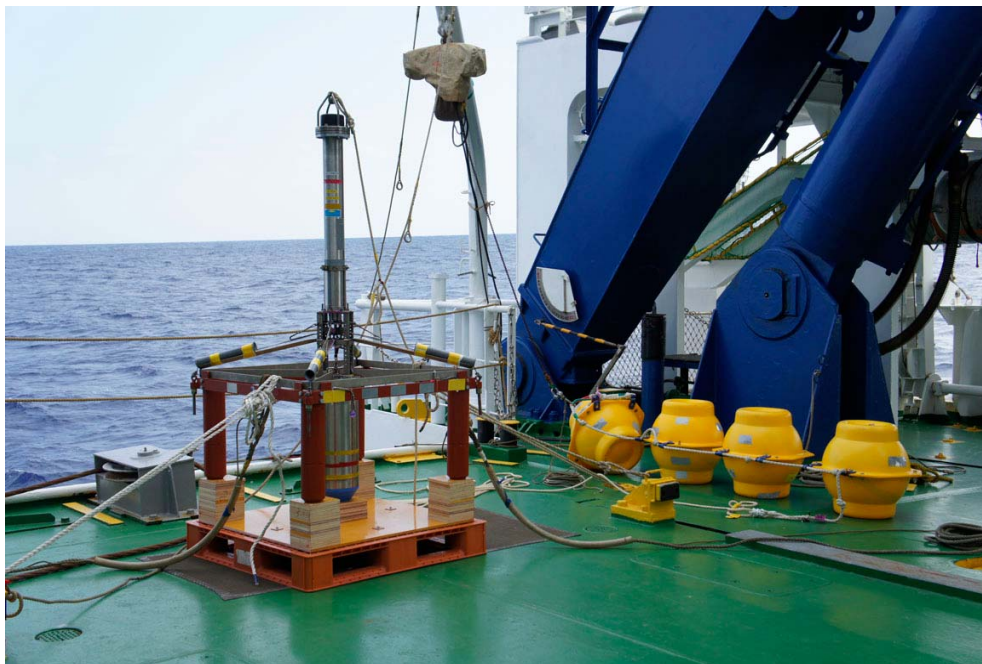


図3. 新方式の超深海用海底地震計(NUDOBS)のプロトタイプ (東大地震研 [課題番号 : 1432]) 。

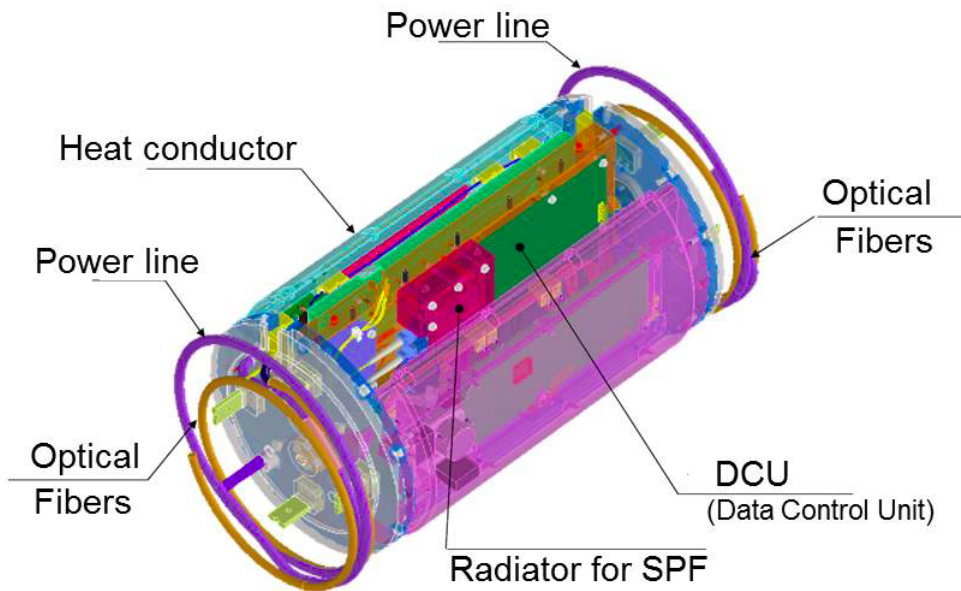


図4. 第3世代ケーブル式海底観測システムにおける内部エレクトロニクスの配置設計図 (東大地震研 [課題番号 : 1433]) 。

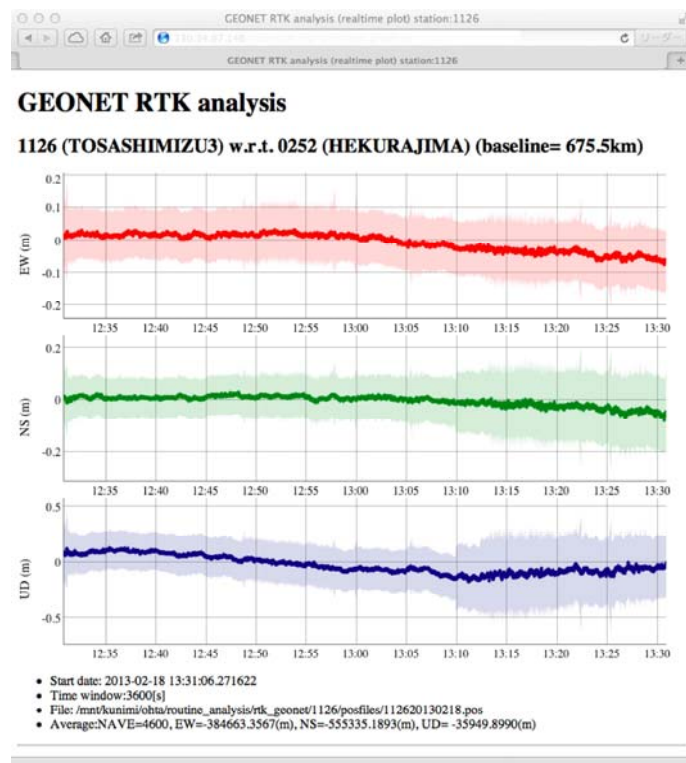


図5. リアルタイムGPS データ可視化の例。web ブラウザ上で確認ができる（東北大学 [課題番号：1218] ）。



図6. 無人ヘリの機体と基地局（東大地震研 [課題番号：1435] ）。

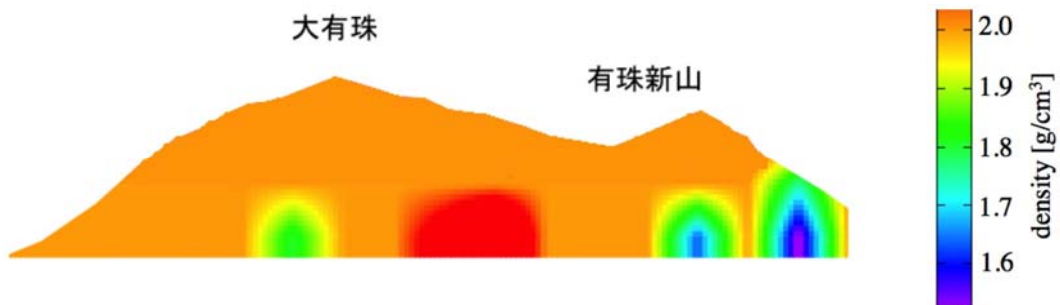


図7. 有珠山における宇宙線を利用した密度構造推定結果（東大地震研 [課題番号：1438] ）。

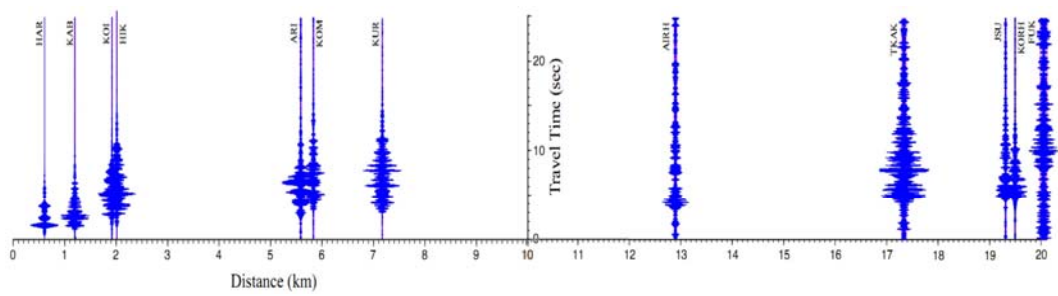


図8. 桜島火山周辺で観測されたアクロスの伝達関数波形(名古屋大学[課題番号:1707])。

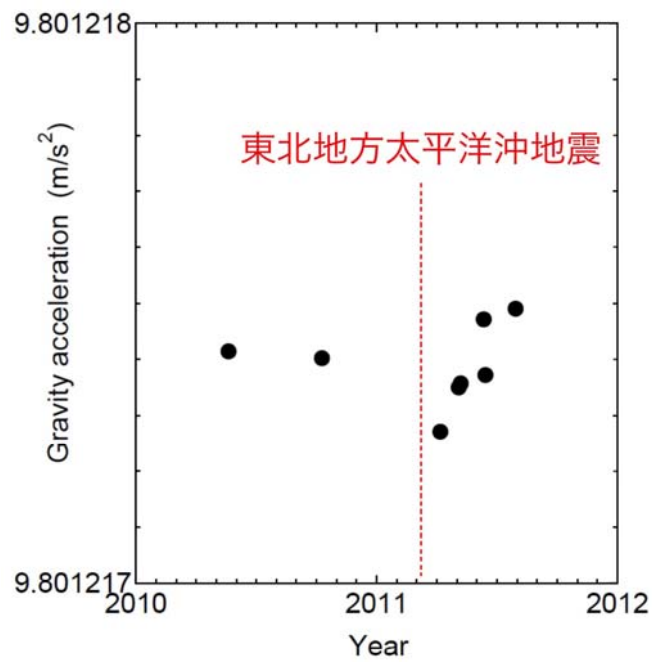


図9. プロトタイプのパフォーマンス試験で得られた東北地方太平洋沖地震前後の重力変化(東大地震研[課題番号:1439])。

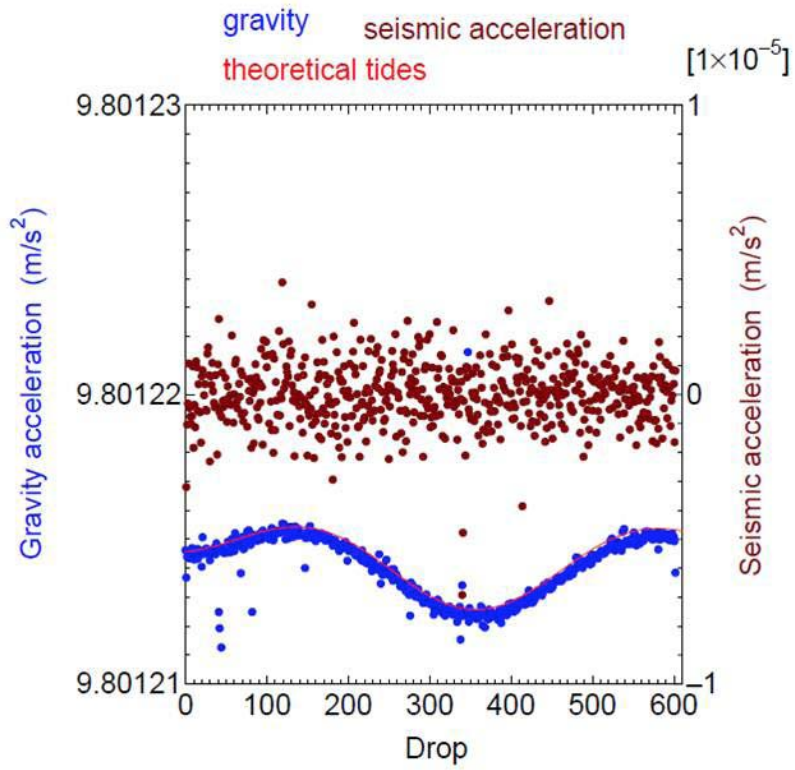


図10. 小型絶対重力計で測定された地球潮汐（青色）。赤線と茶色はそれぞれ理論潮汐および地面振動を示す（東大地震研 [課題番号：1439]）。

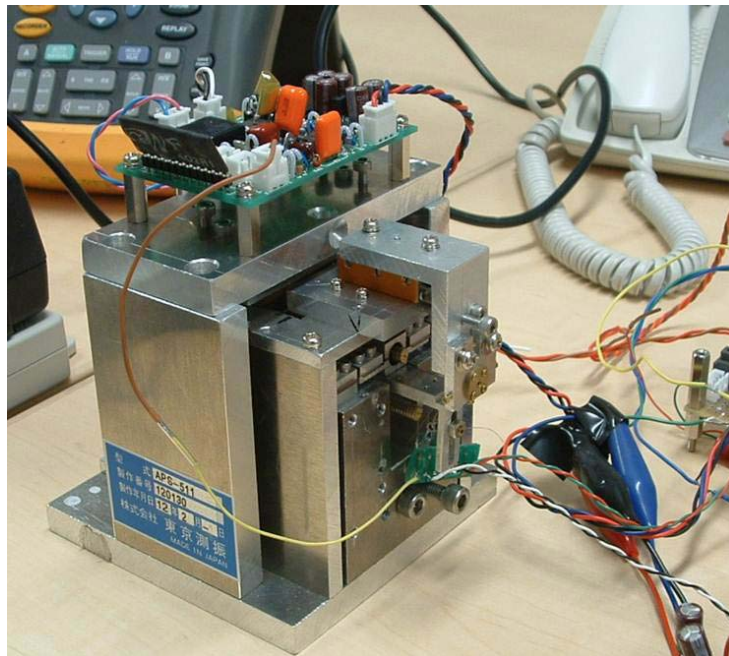


図11. レーザー干渉式広帯域地震計の小型実証機（東大地震研 [課題番号：1440]）。